

江釣子幼稚園幼年消防クラブ 岩手県幼年婦人防火委員会会長表彰を受章

江釣子幼稚園幼年消防クラブ(阿部幸子園長)は、平成30年度岩手県幼年婦人防火委員会会長表彰を受章しました。同表彰は、火災予防思想の普及に貢献し、他の模範となる結成後5年以上の団体などを表彰するもので、本年度は優良幼年消防クラブとして県内から2団体が表彰されました。

同園幼年消防クラブは、平成9年11月に発足し、現在81人が所属。毎月火災を想定した避難訓練や、幼稚園近隣の民家や地域内の商店など約80軒にチラシなどを配布し、火災予防を呼びかけてきました。今回の表彰はそれらの長年にわたる活動が認められたものです。5日に行われた伝達式では、北上地区消防組合消防



表彰のお礼に、元気いっぱい歌を歌う同幼年消防クラブの子どもたち

本部の小田島宏己消防次長が年長組の園児に表彰状と記念品を伝達。園児たちはお礼に元気いっぱい「園歌」などを披露しました。



代表3人で表彰状と記念品を受け取りました

第1回北上市地域公共交通会議

本年度の第1回北上市地域公共交通会議は8月29日、江釣子地区交流センターで行われました。

同会議には、市内の各団体から19人が出席。来年度から運行予定の新拠点間交通(仮称岩崎線・立花線の運行方法など)について協議しました。また、現在、市はコミュニケーションバスなどの公共交通機関の愛称を10月12日(金)まで募集しています。申込方法

など詳しくは広報きたかみ第661号(9月14日発行)6ページまたは市のホームページをご覧ください。

※拠点間交通：あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画に基づく市が整備する地域拠点と都市拠点を結ぶ公共交通

平成30年度岩手県と北上市との政策協議

平成30年度岩手県と北上市との政策協議は8月29日、北上地区合同庁舎で行われました。

「していく」との回答があるなど、市内の環境がより良くなるよう、県と市が話し合いを行いました。

28年度に交わされた「石垣市と北上市の職員交流に関する協定」に基づく職員交流派遣の辞令交付式が18日、本庁舎で行われました。

本年度派遣されたのは山内綾子主任。石垣市財政課に所属し、財政運営などに携わっています。山内主任は10月19日までの約1カ月間、北上市の財政業務やいわて北上マラソン大会などに従事します。

友好都市の石垣市から北上市へ 3度目の職員交流派遣



辞令交付を受けた山内主任(左)。初めて訪れた北上市の印象などを語っていました

同協議は、行政課題や市単独での実施が難しい事業などの解決に向けて取り組む政策を協議するもの。今回は、外国人の県立病院における医療受診環境の整備や、市内の国道4号の4車線拡幅、市内に設置されていない特別支援学校分教室高等部の新設など、14項目を県に要望しました。国道4号の拡幅について、県からは「整備の重要性は認識している。国に強く要望を



高橋敏彦市長らが県に対し、行政課題や事業などの要望を伝えました



委員らが提案された協議内容について、検討を行いました

北上市「食のつながり」認証制度 新たに13者を認証

市は、28年度から北上市「食のつながり」認証制度を実施しており、8月1日付けで新たに13者を認証しました。

同制度は、生産者のこだわりや思いが消費者までつながる取り組みを「食のつながり」として認証するもの。北上市産の信頼性を高めるとともに魅力の発見や共感の機会を提供し、市内外に広くPRすることを目的としています。生産者、販売店、飲食店、加工業者を対象に、基準を満たした取り組みを実施している場合に認証しています。認証を受けた生産者・販売店などは農産物や商品などに北上市「食のつながり」ロゴマークを表示できます。

認証期間は1年で、申請により更新が可能となっております。現在、38者が認証されています。なお、次回の認証申請の受け付けは12月を予定しています(31年2月1日認証)。

今回、新たに認証を受けた生産者・飲食店などは下表のとおりです。

同制度の認証基準や認証を受けた生産者・販売店などの

新規に認証を受けた生産者・飲食店・加工業者

区分	屋号・事業者名	住所
生産者	昆野 薫	口内町
	大小池果樹園 昆野 幸作	口内町
	嶽間澤 馨子	黒岩
	及川 悦子	黒岩
	小菅 弘子	平沢
	(株)西部開発農産	和賀町後藤
	(有)アルバ	和賀町藤根
	しゅうブルーベリー園 千田 習	相去町
	(福)自立更生会 とばせ園	二子町
飲食店	せいぶ農産発 焼肉DINING まるぎゅう	北鬼柳
	Cota Cafe	相去町
加工業者	(福)方光会 北萩寮	町分
	(福)自立更生会 とばせ園	二子町



ホームページ



Facebook

7218235
▼問い合わせ：農林企画課 ☎



北上市「食のつながり」ロゴマーク

珈琲ブレイク

80

北上市長



ラグビーW杯まで一年

8月19日、釜石鶴住居復興スタジアムの落成記念イベントが開催された。東日本大震災津波によって被災した鶴住居小学校と中学校があった場所に完成した真新しいスタジアムで、ラグビー関係者や多くの市民がイベントプログラムを楽しんだ。その中には皆さんご存知のヤマハ発動機ジュビロの五郎丸選手もいて、こやかに子どもたちとボールを追いかけていた。スタジアムは木製の座席が設置され、全体的に質素ながらも暖かい雰囲気デザインのデザインだった。

よく見ると、その最前列に見覚えのあるブルーの座席が並んでいた。昨年のチャレンジデーで、北上市役所前からスタートした有森裕子さんを含み19人のランナーがつかないで運んだ、あの旧国立競技場の座席である。2年前の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会のレガシーが釜石市にしっかりと伝わったことを実感し、うれしく感じたのは私だけではないだろう。前日には、岩手県主催の東日本大震災復興支援に感謝するイベントも開催され、東京2020オリンピック組織委員会長の森会長をはじめ、鈴木オリピック担当大臣など、そうそうたる参加者の中で釜石市全体が喜びに包まれていた。冒頭の落成記念式典では、野田釜石市長から座席寄贈に対する感謝状をいただき、座席リレーを発想した市民、実際に走ってくれた皆さんに改めて感謝申し上げたい。

来年のラグビーW杯で、当市はウルグアイチームの公認キャンプ地になっている。高校ラグビーの盛んな当市としては、ウルグアイチームをしつかりサポートしながら、子どもたちや高校生などとの交流事業も実施したいと考えている。ラグビーW杯開催まであと一年。一昨年の国体のような市民の最高の「おもてなし」で選手や応援団、来訪者を感動させたいものである。